

家族も仕事も大事

「ママの生き方、働き方」

千葉県で唯一の男女共同参画宣言都市である我孫子市。

6月30日に、アビスタ

ホールで「ママの生き方、働き方」をテーマにした講演が行われた。

新聞東京本社運動部記者の中村有花さん(37)が講演を行った。

2004年、毎日新聞

社に入社。甲府支局、大阪本社を経て東京本社に勤務。希望する運動部所属



「ママになったからこそ書ける記事も増えた」と話す中村さん

になり、2009年にサッカー担当。2015年にプロ野球担当になった。

選手が一日の練習を終えてから取材をすることも多く、業務が深夜に及ぶこともあり多忙を極めていた。その頃、妊娠が判

った。

妊娠中の勤務について「妊婦にどこまで仕事を任せていいのか、上司も同僚も手探り状態なので、

自分の状況を細かく説明することが大切」と話す。

足元の悪い現場には行かないなど、無理のない取材を心掛け、2016年の秋から産休・育休に入

った。

約1年の産休・育休後、2017年の

秋に職場復帰。復帰した当初は「活字が読めず、言葉もあまり出てこない。まるでリハビリのような状態でした」と苦労を話した。

復帰後は激務の少ない部署に所属し、仕事と子

育てを両立している中村さんだが、子どもが病気で仕事が進まないように出来なかつたり、自分の時間が持てなかつたりすることもしばしば。そんな時は

焦らずに「子どもと向き合う時間なんだ」と割り

切るようにしている」と話す。

毎日新聞本社では2015年採用以降、女性社員の割合が5割前後で推移しており、女性の管理職の割合も10割を超える。

「今は女性が仕事と子育てのどちらかではなく、どちらも選べる時代。ど

う動くかで環境は変えられる。自分の幸せを他人任せにしない」と凛とした表情で話した。